

研修会報告書

2016年8月10日
松阪市議会議員 今井一久

(1) テーマ

地方議員セミナー

子ども・子育て支援新制度、自治体における保育行政の課題

(2) 日時 8月3日 10:00から17:00

場所 東京都 保育プラザ

主催 保育研究所

(3) 講義1

テーマ・子ども・子育て支援新制度導入後の政策的状況

講師 逆井直紀 保育研究所常務理事

講義レジメ 別紙

所感 昨年4月から変わった子ども、子育て支援新制度導入後の政策的状況を保育研究



所常務理事の逆井直紀氏による講義が、行われました。特徴としては、自治体に対応の差があり、新制度は見直し途中にあることです。今年の4月からは、新たに企業主導の保育が入れられたことです。さらに、松阪市などが今後行おうとしている施設の再編成が、公共施設管理計画と合わせて、加速化している自治体も見受けられることです。

解決すべき課題としての待機児問題解消、保育料負担軽減、保育士確保、処遇改善が出されました。

(4) 講義2 テーマ 待機児童の解消を巡る自治体の状況

講師 猪熊弘子 ジャーナリスト・東京都市大学客員教授

講義内容 別紙



所感 ジャーナリストの猪熊弘子による、待機児童を巡る自治体の状況で、各地での待機児対策の実情について語られました。特に、保育施設で命を落とした子どもが待機児童であった場合や、亡くなった子の8割が、0, 1歳であること、預け始めたばかりの子が多く、保育士不足や質の問題と関わっていることが示されました。実態を、松阪市でも調査する必要があります。

(5) 講義3 保育士不足問題解決のために

講師 村山祐一 保育研究所・元帝京大学教授

講義内容 別紙

所感 保育士不足問題解消のためにと保育研究所の村山祐一さんから、公定価格による国の



保育士の人件費の扱いが出され、国がこの間保育士の人件費の換算をあげていない実態について語られました。保育士確保や保育士の処遇改善の4つの提案として1つは会議の研修等の時間を制度的に、財政的に保障すること、2つめには安定した園研修、自己研修時間の確保と保育士にワークライフバランスの確保を、3つめに保育所の開所、閉所の導入で土曜保育と夏休み休暇の確保、4つめに新制度と保育士のキャリアパスの構築について

提案されました。これで、松阪の状況を分析して提案が必要です。

(6) 講義4 テーマ自治体の保育行政、評価の視点

講師 実方伸子 ・ 保育研究所所員

講義内容 別紙

所感 自治体の保育行政評価の視点として、保育研究所の実方伸子から各自治体の



保育行政の評価の視点について提案がありました。1つは、子どもにとって保育の必要性を明らかにする指標として、保育の必要性の認定に関わることや地域子ども支援事業のなど子ども支援政策の実施、2つめに保育の需要と供給の状況を考えること、特に待機児童の考え方と数、事業計画と利用数、3つめには、子育て支援、子育て家庭の問題で保育料の設定と負担軽減、保育料の無償化の動向と多子減免、4つには、自治体の単独助成と独自基準について指標が示されました。

今後、松阪市も幼稚園と保育園のあり方について議論が進み9月10日には、シンポジウムも行われます。しっかりと、方向性をチェックする必要があります。